

少しでもその雰囲気や情景をキャンパスに表現できれば、又別の楽しさと嬉しさが味わえるのではないかと今回出品してみました。作品は「僥倖の刻」で茶道を選択しました。

戦国の荒んだ主人の心を一時でも和ませてあげたい一心で、心待ちしている女人(ひと)の一刻の短かな 倅せを、どう表現したらよいか。彼女の顔の表情からの、目線そして身体全体から醸し出す情景等を果たして作者・私のすべての思いがこのキャンパスに込めて描けたとは思えませんが、この度到底そこまでは残念ながら至りませんでした。

とにかく女人の表情と周りの雰囲気作りに時間を費やし、大切な何かを描けなかったと思っています。この何かを今後の課題として、今後の作品にも生かしていけばと思いつつ出品に踏み切りました。

何が審査員の先生方に認められたのでしょうか？後期高齢者の私に新人賞をとること。通知を見たときはやや驚きを感じた次第です。新人賞とは若い人が貰うものと思いつつながら、若く見られたことは二重の喜びとして素直に有難くお受け申し上げます。今後も懸命に精進し、楽しく意義ある作品の制作に励みたいと存じます。

どうぞ今後とも宜しく、ご指導賜りますようお願い申し上げます。

工芸の部



東京都議会議長賞

保田昌子(山口)
「白藤文花器」
(ガラス工芸)

感謝

この度、第三十八回新日美展、工芸部門での東京都議会議長賞を頂き大変うれしく感謝しています。2009年初めて新日美展に応募させていただいて以来2010年に新日美大賞、2012年に会長賞を頂きました。

私はサンドブラストガラス工芸ガラスに砂を吹き付けて彫刻するを多くの方に知っていただきたいという思いがきっかけで応募させて頂きました。毎年どのような構図、形、色にしようかと考えてはいるのですが彫刻に至るまでの作業がなかなか大変でとりわけ生地を注文して作って頂くことの難しさ、其れは何層にも重ねる色、形を作って下さる職人さんがなかなかいらつしやらない事、そしてこの打ち合わせが重要でこれをきちんと確認しないと色の重ね具合が厚かったり薄かったり、不透明か透明色か等、彫刻し始めから色が出てきてこれは違うという事があつたりします。最近では決まった職人の方や工房の方たちのお陰でもとても良い生地を作ってくることが出来るので思い切った作品に取り組むことが出来ています。ランプを作るときにはアイアンの台を作った下さる方の協力もあり色々な作品にチャレンジすることが出来ます。これからも多くの方々の協力を頂きながらより良い作品を作り出せたらと思っています。



新日美大賞

鈴木 聡(茨城)
「その時
生まれた街」
(石 彫)

この度、第三十八回新日美展に於いて思いもかけず新日美大賞を頂きました。誠に有難うございます。新日美展には二〇〇四年から出品させて頂き今年で十年になり、自分にとって十周年という節目での大賞で、とてもうれしく感激の気持ちでいっぱいです。皆様のご指導は勿論のこと私を支えてくれる仲間や家族がいてくれたお陰と思っています。

毎年このことながら今年はどうな石を使いたのうな技法と風景、色々と沢山ありますが、どのような作品を創ろうかとウキウキとワクワクで心がいっぱいになります。

今回の作品「その時生まれた街」は、石の種類ですが白御影石、下が黒御影石になります。白御影石は磨いたり、叩いたり、割ったりしてもそんなにその部分が目立ちません。白御影石はそうい

う点では表現的に難しいのだが、あえてこの石で表現してみようと思いいました。題名の「その時生まれた街」は年に数回ですが東京に向くことがありますが、今回街の変化に驚かされると同時に自分の中で言葉にならない思いになりました。その時その時の街の変化と言葉にならない思いを自分なりの表現で形にしたのが今回の作品になります。今回の受賞を励みに向上心を失わず自分しか出来ない表現力、自分らしい作品を創作していくと同時に、もつとすばらしいと言われる作品創りに挑戦していきたい、と思います。これからも宜しくお願い致します。有難うございました。



新人賞

石田 富士(島根)
「雲 竜」
(木 彫)

夢のまた夢 私は幼少のころから物造りが好きでした。その中でも木が大好きで、定年後は家内と一緒に彫刻を楽しむこと約十年になります。その間島根県内を中心に新日本美術展、県美展、シルバー美術展等にも出品してきました。

今年の新日美展には島根の石見神楽をイメージした「雲竜」に挑戦しました。制作する中で全体のバランスや竜のウロコ等が特に難しく大変苦労しましたが楽しく制作出来ました。自分の好きな彫刻で物を作りその甲斐があり、この度新人賞に選ばれました事を大変嬉しく存じます。これを今後の励みにして頑張ります。

私事になりますが今回家内が初めて兎をモチーフにしたタイトル「月明かり」を、私の「雲竜」と共に二人揃って出品出来ました。

お陰さまで東京や京都の友人達をして兄弟・娘・孫たちにも鑑賞してもらえ二重三重の喜びを感じている次第です。まるで夢のようです。本当に有難うございました。

新日美会友・二瓶博厚さん快挙 「上野の森美術館賞」受賞！上野の森美術館主催 日本の自然を描く展 自由部門

昨年(2014年)の新日美37回展から出展の二瓶博厚さん(東京支部)が、今年の上野の森美術館主催「日本の自然を描く展」自由部門で見事、「上野の森美術館賞」に輝きました。(応募4599点、入選2775点)美術館関係資料による)

昨年は上位入選なるも入賞ならず今年はずっと取り組んだとのこと。といつてもいきなり「トップ賞」で、ご本人が一番びっくりだったそうです。作品はバルセロナの早朝の街を描かれた「似顔絵通りの朝」。

団体行動前のひと時、似顔絵屋さんもまだ出勤していない街の通りの空気を、これから展開されるであろう賑わいを想像しながらスケッチされたとのこと。

日本画の材料で描かれていますが、油絵のような表現です。10号ばかりの展覧会ですが、受賞者の中央を飾る二瓶さんの作品は、一際静かで朝の空気がそのまま伝わってくるようでした。

尚、会場には新日美会員の水野美預子さんの水彩画「レースの敷物に置かれたイチジク」も展示されていました。他にも会員の方が入選されていたかもしれませぬ。皆様の様々な活躍に新日美の一員として誇らしく思いながら拝見しました。(早田記)



「似顔絵通りの朝」 F10